

事務事業名 少年海外派遣支援事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:04 学校家庭地域の連携

部名:教育部

課名:生涯学習課

基本事業:04 地域教育力の向上

計画年度	平成18年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内在住の中学生・高校生 少年海外派遣団		<p>目的 市内在住の中学生・高校生を海外へ派遣し、その自然・文化及び社会情勢・福祉活動等を見分させ、広い視野と国際感覚豊かな人材を育成する。</p> <p>内容 応募者数が募集定員（15人）を超えた場合は、作文・面接により選考する。</p> <p>・事前研修会（英語・手紙等）を3回開催。 ・5泊7日で実施。（内ホームステイ3泊） ・交流する学校で、日本的なパフォーマンスを披露。 ・帰国後、事後研修会（お礼の手紙等）を開催。 行先 ニューゼaland 個人負担金100,000円</p>				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
海外で、その自然・文化及び社会情勢・福祉活動等を体験することにより、広い視野と国際感覚が身につきます。						
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	打合せ日数（面接・結団式・研修会）	日	5	6	6	6
活動指標						
成果指標	海外派遣により、国際感覚が身についたと思う参加者の割合	%	100	100	100	100
成果指標						
事業費		千円	3,513	3,074	3,500	
		うち一般財源	千円	3,513	3,074	3,500
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		将来の山武市を担う国際感覚を持った人材育成することは妥当である。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		研修生の人数が限られてしまうが、この事業を継続することにより、市民に事業の目的が浸透し、今後の参加希望者に対して広い機会を与えることになる。将来の山武市を担う国際感覚を持った人材育成につながる。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		平成21年度から募集資格を中学2年生以上高校3年生までを対象とした。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		研修先であるニューゼalandの（マカティ）パ克蘭ガ中学生21名が平成21年に初めて山武市を訪れ研修を実施した。市内の18世帯がホームステイの受入れをし交流も新たな展開をみせている。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		民間事業者で同様の事業を実施しているが、事業に対する信頼度や体験内容が異なるため再編成は難しい。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		受益者負担の増も考えられるが、20年度に受益者負担の見直しを実施し、現在の負担金額（10万円程度）が限度かと考える。				